

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

現金	普通預金	当座預金	売掛金	未収入金
前払金	仮払金	手形貸付金	備品	買掛金
未払金	手形借入金	前受金	仮受金	備品減価償却累計額
売上	受取利息	固定資産売却益	仕入	通信費
租税公課	発送費	減価償却費	支払利息	固定資産売却損

- 福岡商店に資金 ¥910,000 を貸し付けるため、同店振出しの約束手形を受け取り、同日中に当店の当座預金口座より福岡商店の銀行預金口座に同額を振り込んだ。なお、利息は返済時に受け取ることにした。
- 平成26年1月6日に購入した備品（取得原価 ¥420,000、残存価額ゼロ、耐用年数5年、定額法で計算、間接法で記帳）が不用になったので、本日（平成29年8月25日）¥140,000 で売却し、代金は2週間後に受け取ることにした。また、決算日は12月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。
- 領収証の発行や約束手形の振出しに用いる収入印紙 ¥8,400 と郵便切手 ¥2,100 を購入し、代金は現金で支払った。なお、この収入印紙と郵便切手はただちに使用した。
- 従業員が出張から戻り、さきの普通預金口座への ¥420,000 の入金、得意先広島商店に対する売掛金 ¥168,000 の回収および得意先山口商店から受け取った商品 ¥700,000 に対する手付金 ¥252,000 であることが判明した。なお、入金時には内容不明の入金として処理してある。
- 得意先島根商店より注文のあった商品 ¥147,000（原価 ¥102,900）を発送し、代金のうち ¥35,000 は注文時に受け取った手付金と相殺し、残額は掛けとした。なお、商品の発送費用（当店負担） ¥4,200 を運送会社に現金で支払った。

第2問 (10点)

神奈川商店は、静岡商店、東京商店および千葉商店を仕入先にしており、仕入先元帳を開設している。そこで、次の仕入先元帳の記入をもとにして、答案用紙の買掛金勘定の空欄を埋めなさい。ただし、() には相手勘定科目を、[] には金額を記入すること。

仕入先元帳			
静岡商店			
4/14	返品	35,000	1/1 前期繰越 140,000
10/25	現金にて支払	455,000	4/12 仕入 350,000
12/31	次期繰越	245,000	9/5 仕入 245,000
		<u>735,000</u>	<u>735,000</u>
東京商店			
6/26	返品	21,000	1/1 前期繰越 175,000
12/10	約手にて支払	420,000	6/25 仕入 294,000
12/31	次期繰越	189,000	11/23 仕入 161,000
		<u>630,000</u>	<u>630,000</u>
千葉商店			
1/10	小切手にて支払	210,000	1/1 前期繰越 210,000

第3問 (30点)

次の資料 (A) および (B) にもとづいて、答案用紙の平成30年10月末の合計試算表を作成しなさい。

(A) 平成30年9月30日の合計試算表

合計試算表

平成30年9月30日 (単位：円)

借方	勘定科目	貸方
284,200	現金	104,300
716,100	当座預金	238,700
577,500	受取手形	192,500
931,000	売掛金	338,800
294,000	繰越商品	
14,000	前払金	
168,000	未収入金	
1,505,000	備品	
89,600	土地	51,100
189,000	支払手形	567,000
245,000	買掛金	756,000
	借入金	350,000
	未払金	280,000
	前受金	21,700
	貸倒引当金	9,800
	備品減価償却累計額	262,500
	資本金	1,295,000
	売上	2,240,000
	固定資産売却益	1,400
1,374,100	仕入	
254,800	給料	
63,000	支払家賃	
3,500	支払利息	
6,708,800		6,708,800

(B) 平成30年10月中の取引

1. 商品の売上げ

- (1) 現金の受取りによる売上げ ¥1,108,100
- (2) 約束手形の受取りによる売上げ ¥322,000
- (3) 掛売上げ ¥875,000
- (4) 手付金(前月受取り)による売上げ ¥13,300

2. 商品の仕入れ

- (1) 小切手の振出しによる仕入れ ¥546,000
- (2) 約束手形の振出しによる仕入れ ¥455,000
- (3) 掛仕入れ ¥735,000
- (4) 手付金(前月支払い)による仕入れ ¥14,000

3. 手形の当座預金口座による決済

- (1) 約束手形の期日支払い ¥245,000
- (2) 約束手形の期日入金 ¥294,000

4. 買掛金の小切手の振出しによる支払い ¥616,000

5. 売掛金の当座預金口座への振込み ¥592,200

6. 商品にかかわる手付金の現金による受払い

- (1) 手付金の支払い ¥19,600
- (2) 手付金の受取り ¥23,100

7. 未収入金の当座預金口座への振込み ¥52,500

8. 備品(代金は翌月払い)の購入 ¥210,000

9. 未払金の小切手の振出しによる支払い ¥280,000

10. 当座預金口座からの引落し

- (1) 給料 ¥254,800
- (2) 家賃 ¥63,000
- (3) 借入金にかかわる利息 ¥3,500

11. 当座預金口座への現金の預入れ ¥1,106,000

第4問（8点）

三重商店は、当期の4月1日に、得意先愛知商店に対して現金¥1,050,000を期間1年として貸し付けた。この貸付けに対する受取利息勘定の記入（推定含む）は次のとおりであった。よって、答案用紙の各日付の仕訳を示しなさい。なお、会計期間は1年、決算日は12月31日である。

受 取 利 息			
12/31	(?)	(?)	9/30 当座預金 21,000
			12/31 未収利息 (?)
		(?)	(?)
1/1	(?)	10,500	

第5問（32点）

次の【決算整理事項等】にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間は平成29年1月1日から12月31日までの1年間である。

【決算整理事項等】

- 現金の手許有高は¥101,500である。なお、過不足の原因は不明であるため、適切な処理を行う。
- 普通預金口座から買掛金¥25,200を支払ったが、この取引の記帳がまだ行われていない。
- 仮受金の残高は、決算直前に得意先より受け入れた内容不明の入金であったが、その全額が売掛金の回収であることが判明した。
- 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
- 商品の期末棚卸高は¥143,500である。売上原価は「売上原価」の行で計算すること。
- 建物（耐用年数30年、残存価額は取得原価の10%）および備品（耐用年数5年、残存価額ゼロ）について、それぞれ定額法により減価償却を行う。
- 保険料は、当期の9月1日に支払った店舗に対する1年分の火災保険料である。よって、未経過高を月割計算により計上する。
- 支払利息の決算日までの未払額が¥1,400ある。
- 手数料の未収分が¥2,100ある。